中期 DX 戦略の推進状況

2025 年度上期

1. 社会の動向

AI の普及と進化は、単なる業務効率化やコスト削減を超え、企業の競争優位性を確立し、新たな価値を創造するために不可欠な要素となっています。AI エージェントによる業務自動化や意思決定支援は急速に広がり、従来の業務構造は再設計/再定義されつつあります。その結果、求められるスキルが日々アップデートされることに対する「変化への対応力」が企業成長に一層必要となります。

世界経済フォーラムの「仕事の未来レポート 2025」によれば、2030 年までに約 22%の仕事が創造的破壊を受け、必要なスキルの約 40%が変化すると予測されています。また、テクノロジースキルの需要が高まる一方で、創造的思考や柔軟性といったヒューマンスキルも重要性を増しており、これらを組み合わせた力こそが、今後の競争力を左右します。

よって、DX の価値を最大限に引き出すための「変化への対応力」には「人」の変革が不可欠です。

SCC では、社員のスキル可視化、研修・学習体制の充実化、資格取得インセンティブ制度、そして一人ひとりの挑戦や自己研鑽などを奨励する組織文化の醸成など、リスキリングを支援する施策を積極的に展開しています。さらに、一人ひとりのキャリアビジョンの実現を支援するキャリアサポート専門部門を設置し、企業と社員双方の持続的成長を支える総合的な仕組みづくりを進めています。

私たち SCC は、IT で高度情報化社会を支えてきた実績と誇りを胸に、DX 戦略を確実に推進し、未来に向けて社会に新たな創造価値を提供し続けます。

株式会社エスシーシー
代表取締役社長
春日　邦彦

2. 中期 DX 戦略の推進状況

2025 年度より、重点施策②「人財開発支援スキームの構築」を「タレント活用のマネジメントシステム構築」に変更しました。スキル/ポテンシャル可視化、計画的なスペシャリスト育成、キャリアサポートとのリンクといった仕組みをデジタル技術によって実現することで、会社と個人の共通価値化、双方の持続的成長を目的としています。

（ア）重点施策

① プロジェクトマネジメント支援 AI システムの構築

構築したシステムの AI 精度は当初 KGI である 90%に達しました。引き続き、社内活用によるマネジメント作業の更なる省力化に向けた追加拡張を行っています。また、AI 精度を維持・向上するためには継続的な学習と改善が不可欠であるため、今後も定期的なモデル更新や学習を進めていきます。

② タレント活用のマネジメントシステム構築

活用方法の拡大検討を行いつつ、キャリアサポートの仕組みを構築したうえで一部部門への試行運用を開始しました。2025 年度下期からは試行範囲を拡大させつつ、2026 年度の全社展開に向けた準備を進めています。

③ 企業アライアンスによるコラボレーションビジネスの開始

2025 年度の実績はアライアンス機会創出が 5 件、うち、アライアンス事業に繋がる企画検討を 3 件となっております。昨年度時点で 1 社と事業化できていることから、年内にもう 1 社との事業開始することで、計 2 社との事業開始を目標に引き続き対応を進めてます。

（イ）環境整備

① 支援・育成面

社員のキャリアサポートを目的とした組織を新設し、一部部門に対して試行運用を開始しました。また、スペシャリスト育成に向けた研修コンテンツの拡充、及び、企業向け電子書籍サービスの導入など、一人ひとりの学習と成長を支援する取り組みを進めております。

② 職場環境面

各拠点を跨ぐ推進体制を支援するため、バーチャルオフィスを全社導入しました。これにより、拠点を跨いだ体制においてもシームレスなコミュニケーションが期待できます。また、組織に囚われないタテ・ヨコ・ナナメのコミュニティ形成を後押しするコミュニケーションツールも全社導入しており、コミュニケーションの更なる活性化・充実化を図ります。

③　作業・セキュリティ面

SCC 独自の AI コンシェルジュを構築し、全社導入しました。これにより、社内事務作業の効率化・省人化が期待されます。また、全社への EDR(Endpoint Detection and Response)導入によるセキュリティ対策の強化を行いました。

④　組織風土面

挑戦や自己研鑽を含む行動指針の浸透活動の一環として、マネジメント層における行動指針の実践に向けたワークショップを開催しました。マネジメント層の、理念や行動指針に対する更なる理解に繋げると同時に、マネジメント層による率先垂範、及び、環境提供による配下社員への波及効果も期待されます。